



青年部は2月5日、第53回定期大会を開催しました。前半に学習会を行い、地域労組おおさか青年部の中

働きやすい 職場づくりが 必要!

第35回
青年部
定期大会

前半に学習会を行い、地域労組おおさか青年部の中
高氏から、派遣村で聞いた派遣切りされた労働者の声や、また大阪で派遣労働者など未組織の労働者の相談のつたり、団体交渉などを通したクビ切りや残業代などの是正の取り組みについて語っていただきました。

各代議員の発言から、労働条件では、有休や昼休憩がとりにくい、残業が増えている、超勤がつけにくいといった実態、仕事内容については、研修機会が減っている、管外出張費が削減された、障害者・高齢者の医療費削減や私学助成の削減などで府民生活が深刻、松原市民病院の廃院による影響などの意見が出されました。図書館の市場化テストでは長年の蓄積やノウハウ



BOOK

「まちづくりの危機と公務技術」

片寄俊秀・中川 学共著

読後感想
角橋 徹也 (工学博士/技術士1級/元大阪府職労委員長)

「まちづくりの危機と公務技術」を一気に読ませてもらいました。公務技術者をめぐる現場の荒廃と公共事業の腐朽の現状が鬼気迫る迫力で描かれていて同感の思いを深くしつつ読み通しました。特に公務技術の現場の状況が的確に捉えられていてさすが現場を知り尽くしたベテラン筆者でないと書けないような正確さと熱情を感じました。それら

文章も読みやすく、伸びやかで所どころに引用される「細部に神宿る」現場百べん」など適切な格言が入っていて、これまでの技術者の手になる味気ない文章とは一味も二味も違う文化性に富んだ筆者の教養を感じさせる内容の深さを感じました。特に武庫川渓谷に立ちのかるダム予想図と実地の写真などはプレゼンとして秀逸でした。それら

が都市の地下ダム、穴あきダム、流域下水道、高水流量、超高層住宅の問題など具体的なテーマを素材にしては筆者らの主張を現場から裏つけているだけに説得力のある内容となっています。

ただひとつ気になるのは、現状告発が大部分を占め、公務関連技術者に本心に奮起してほしい具体的な行動提起が弱かったことです。最終章に十二箇条としてまとめられているのですが、やや具体性に欠けて抽象的になっていると感じました。しかしいずれにしても、本書は技術者はもちろん公務に携わる多くの労働者に是非読んで欲しいと心底から思いました。

まちづくりの危機と公務技術
— 欠陥ダム・耐震弱体化・完成する公共事業 —
片寄 俊秀
中川 学
イマジン出版
A 5判 184頁
定価 1260円

ウの継承の危機があるとの意見が出されました。2008年度経過報告承認後、2009年度運動方針が決定しました。青年部では、この一年も青年が一人で孤立せずに、つながりをつくり、府民の目線にたった仕事をしていくための学習や働きやすい職場づくりのために奮闘していきます。

残念ながら「児童福祉の現状」連載記事を2回休ませてもらいました。私事ですが、昨年11月3日の休日の早朝に、自宅近くでランニング中に意識を失って転倒し、救急車で運ばれて緊急入院となりました。

「頭部骨折と硬膜下出血」の診断で、入院と自宅療養で約2カ月休むことになり、1月から職場復帰しました。仕事上で迷惑かけたことと同時に、組合活動面でも迷惑をかけ、とりわけ、連載中断となったことに残念な思いを強くしています。

幸い麻痺等の後遺症もなく、1月からは、仕事に組合活動に元気に取り組んでおり、とりわけ、連載記事を継続できることにほっとしています。2カ月病後職場復帰帰ってみて、改めて痛感

に、2カ月職場を離れて、改めて危機感を持つことになりました。时期的にも、次年度の組織体制について、当局との交渉を継続的に実施しているところですが、何点かの重要課題があります。1、全国の児童相談所の

この連載で、「子ども家庭センターでの実践と現状」を訴えてきました。が、次年度体制が「働きがいもったサービースに繋がる」ようになるよう労働組合としても奮闘する決意です。応援をお願いします。

児童福祉の現状 30

健康福祉支部相談所分会書記長 神夏磯 保

したのほ、朝から「電話が鳴りっぱなし」「面接室は空き室の取り合い」と、騒然としていることです。

常に職場にいと、この状態に慢性化してしまつて当たり前のような感覚になつてしまつこと

【日本子ども家庭総合研究所の実地調査では、全国の虐待専従児童福祉司一人あたりの件数平均59件。大阪府では94件】

1、先進国と言われていた欧米の職員一人あたりの担当相談件数は、20〜30件で基準が設けられている。

1、岬町・寝屋川市児童虐待死事案検証委員会「人員体制の強化」が答申されている。

1、大阪府は、厚生労働省に、「人口のみならず相談件数に見合った配置基準を設けてほしい」と要望している。

中でも、職員一人あたりの担当相談件数がトップレベルにあり、恒常的残業も含めて必死に対応している実態